

令和3年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472301074	事業の開始年月日	平成17年10月1日	
		指定年月日	平成17年10月1日	
法人名	有限会社 フェルシ			
事業所名	グループホーム ぼぼ箱根板橋			
所在地	(〒250-1134) 小田原市板橋933-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和3年10月12日	評価結果 市町村受理日	令和4年1月11日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの目の前に小田原市の郷土資料館があり、四季折々の花を楽しめる環境に立地しています。ホームでは日課として、体操、散歩、歌のレクリエーション等を行い、ご利用者の心身の活性化を図っています。また厨房職員を配置しており、手作りの食事を提供しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和3年11月10日	評価機関 評価決定日	令和4年1月4日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
当事業所は、箱根登山鉄道箱根板橋駅から徒歩約8分の、曹洞宗香林寺の門前に位置している。近くには庭園が見事な松永記念館や寺院、神社、公園などが点在し、緑豊かな散歩コースに恵まれた立地にある。建物は木造2階建てで、床張りは1階が楓、2階が桜の材質で木の温もりがあり、壁は漆喰で日本家屋の良さが感じられる。また床の材質がユニットの名称となっている。法人はグループホームの他に訪問介護、デイサービス、居宅介護支援事業所などの事業を運営している。

【利用者の心身の活性化を目指した支援】
事業所の3つの理念の一つである「心身の活性化を目指した環境を作ります」に基づいて、利用者は、毎日午前と午後には体操やスクワット、天気の良い日には散歩などで身体を動かし、歌のレクリエーションや職員が企画した各種行事に参加している。職員は利用者の意向を大切に、見守りを重視して、利用者が楽しみながら心身の活性化を図り、調理時の臭いや音などが醸し出す家庭的な雰囲気の中で、美味しい手作りの食事を楽しみ、穏やかに、安心して暮らせるように支援している。

【働きやすい職場環境の整備】
管理者は、職員の年2回の人事考課面談をキャリアシートを活用して実施し、要望を把握している。資格取得のための講習や試験日の出勤扱い、産休や育児短時間勤務制の導入、厨房職員採用により介護職員が支援に専念する時間を増やす工夫、タブレット末端を活用した業務の効率化など、働きやすい職場環境づくりに努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム ぼぼ箱根板橋
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			○ 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			○ 3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して、朝の申し送り時、理念を管理者、職員で復唱する事で理解に向けた働きかけを行っている。	理念は「家庭的な雰囲気を大切にします」「心身の活性化を目指した環境を作ります」「安心した生活が送れるようお手伝いします」の3つを掲げている。開所時に管理者と職員で作成したもので、事務所に掲示して、朝の申し送り時に唱和している。職員は常に利用者の意向を把握し、各種行事の企画を考えて、利用者が散歩や体操、スクワット、歌のレクリエーション、風船バレーや卓球など楽しみながら身体を動かせるように工夫し、心身の活性化に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加し交流する事としていたが、今年もコロナウイルス感染症の為、お祭り他、自治会の行事が中止となっている。	大窪自治会に加入しているが、コロナ禍で日常的な関わりは少なく、さらに各種地域行事は中止となっている。書面による運営推進会議などで、意見交換している。毎月11日に「介護相談日」を開催しており、地域住民が相談に来た事例がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年も引き続き介護相談日を毎月11日に行う予定でしたがコロナウイルス感染症の拡大を懸念し暫く中止としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に引き続きコロナウイルス感染症の為、書面での運営推進会議を行っている。	2ヶ月毎に、書面による運営推進会議を開催している。参加者は、各ユニット代表の家族、元自治会副会長、民生委員、オーナー、地域包括支援センター職員、管理者、職員で、事業所の活動状況、事故や行事の報告、情報交換などを行っている。質問として、地域包括支援センター職員から「事業継続計画」についてどのように進んでいるかの問い合わせがあり、現在法人が検討していると回答している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請代行や生活保護受給者の手続きの際、困り事等相談する機会を設けている。	小田原市高齢介護課が窓口で、要介護認定の更新申請代行などの手続き、電話での相談などで連絡を取っている。生活援護課職員が、生活保護を受けている利用者の面会に来訪している。小田原市グループホーム協会に加入して、行政や他の事業所と情報交換している。小田原市が関与している年2回開催の「認知症をにんちしよう会」に参加している。同会では、介護、医療などの関係者が協力して、イベントなどを小田原駅の地下街や大型商業施設などで開催し、認知症に関する情報を発信している。今年度はコロナ禍で動画配信サービスに切り替えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度「身体拘束適正委員会」を開催し身体拘束廃止に向けての取り組みを行っている。	身体拘束をしない旨、運営規程に明記し、指針も策定している。「身体拘束等適正化検討委員会」を3ヶ月毎に開催し、議事録を残して、内容をケアカンファレンスで職員全員に周知している。研修は5月にスピーチロックなどについて実施している。外出したい素振りが見える利用者については、職員が付き添って対応して、見守りを重視している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為を否定し人権を尊重している。身体拘束の廃止に向けた研修を職員に取り組んでもらっている。	高齢者虐待防止に関しての方針・指針が明確になっていない。虐待に関する研修については、5月に実施して職員は心理的虐待やネグレクトなどについても研修で学んでいる。万が一職員が虐待の可能性がある行為を発見した場合の報告ルートが明確になっており、迅速に管理者に届くようになっている。	虐待防止に関する方針・指針が明確になっておりません。方針・指針を明確に作成して、職員に対して周知することを期待します。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員、管理者は権利擁護に関する研修に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明を行っている。	/	
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、ご本人の様子等を伝えていきます。ご家族からの意見や要望を伺うようにしている。ご家族からの意見等は、カンファレンス時職員に伝えている。	面会や運営推進会議、電話などで家族の意見や要望を把握して、出来る限り対応するように努めている。家族からはコロナ禍で面会できないので利用者の様子を知りたいとの要望が多く、オンラインや玄関先、窓越しなど距離をとった短時間面会を実施し、要望に応えている。3ヶ月毎に法人が「ぼぼ便り」を発行し、法人と事業所の活動状況などを知らせている。事業所としても、毎月の請求書と一緒に、誕生日月の利用者の写真と活動状況報告書を家族に送付している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスに出席し、職員と意見交換を交わしている。また個々に意見を聞く機会を設けている。	毎月のユニット会議やケアカンファレンス、年2回の人事考課面談、毎朝の引継ぎ時などで職員の意見や要望を聞いている。職員から日々の支援に対する意見が多く、管理者は、チームケアの大切さを常に職員に指導している。日常の支援の中で、気になることは、その場でお互いに注意しあえる環境、チームワークづくりに努めている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状態を把握し、賞与査定時に反映させている。また経験年数に応じ、ステップアップのための研修に参加させている。	出退勤はタイムカードで管理している。管理者は職員の勤務状況を把握しており、労働基準法を遵守している。人事考課面談を、年2回キャリアシートを活用して自己評価を実施している。資格取得の補助として、講習や試験日の出勤扱いなど支援している。2階に休憩室を設置して、職員のストレス解消に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や資格取得のため勤務しながら研修が受けられるよう便宜を図っている。	習熟度に応じた育成プランを法人が作成している。年間の研修計画に基づいて、職員の研修を実施し、外部研修を受けた法人の職員が、事業所で講師となって研修をすることもある。非常勤職員も研修に参加して、スキルアップに努めている。新人研修は法人が採用時に実施しており、事業所でも配属された新人職員に対して、主任クラスの職員がOJTで教育している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加。会員施設のケアスタッフが研修時に参加し易い環境を作っていたが、コロナウイルス感染症の拡大の為今は他の施設との交流はしていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には、まず施設見学をして頂き、入居に関して不安な事、困り事等を丁寧に伺い安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在の本人の状況を確認しご家族の不安や困り事、要望を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービスをプランニングしていたケアマネジャーに連絡し、状況を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、昔の風習などを利用者から教わり、一緒に生活する者同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご本人の日々の状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどの様に、提供出来るか、ご家族に出来る事、施設で出来る事を一緒に話し合えるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしていたが、今はコロナウイルス感染症の拡大を懸念し、極一部の面会のみ行っている。	利用者は電話で友人と話しており、職員は電話の取次ぎをしている。家族の法事で自宅に帰る利用者もいる。コロナ禍のため全員が訪問理美容を利用している。今までの習慣として、新聞を継続して読んでいる利用者や裁縫の好きな利用者が、職員と一緒に台布巾などを縫っている。洗濯物を干すなど利用者のできることは職員と一緒にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクリエーションや洗濯物畳みなどの作業を中心に日中は出来るだけリビングで過ごして頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族から相談があった時には、守秘義務に配慮しながら対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプランの更新時等にご家族やご本人から意見や希望を聞いている。また日常の関わりに中でもご本人の思いを把握するよう努めている。	職員は、利用者の日常の支援や会話の中で思いや意向を把握するように努めている。思いや意向の把握が困難な利用者には、その表情やしぐさなどから把握するように努めている。家族から情報を入手することもある。把握した思いや意向は「介護支援経過記録」に記入して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、散歩等を日課として行っている。1人1人の趣味などの把握に努め、また、1人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気付いた事を話し合い、時には家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。	まずはアセスメントを実施し、1週間ぐらい体験入所して様子を見て、初回介護計画を作り、1ヶ月後に本介護計画を作成している。その後短期目標は6ヶ月、長期目標は1年で、変化のある時はその都度見直している。医師や看護師の意見は訪問診療時の「訪問診療議事録」などから、家族の要望は電話や面会時などに把握して、介護計画に反映させている。見直しは原則として職員全員が参加する月1回のケアカンファレンスで意見交換している。介護計画のサービス内容を「サービス計画チェック表」に記入し、職員は常にサービス内容と日々の支援の連動を確認している。日々の支援の状況は、タブレット端末を活用して、業務の効率化を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアの実施、工夫などを記録し、職員間で情報共有を行っている。得た情報を介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、懐かしい曲を鑑賞したり、唄ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。今年もコロナの為、ボランティアの来園はお断りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在はかかりつけ医にかかっている利用者はいません。	利用者全員が事業所の協力医を受診している。協力医は神経内科で月2回の訪問診療があり、24時間対応可能である。整形外科（骨粗鬆症治療）や眼科を家族対応で受診している利用者もいる。看護師は非常勤職員の2名体制で、週2～3回交代で勤務し、健康管理や職員からの相談、利用者の体調などの必要な情報を協力医に繋いでいる。看護師はオンコール体制で、いつでも相談できる体制になっている。歯科衛生士が月2回来訪し、口腔ケアの指導をして、治療が必要であれば歯科医師が訪問診療で来訪するようになっている。受診内容は「訪問診療議事録」に記入し、職員間で共有している。薬は協力医と連携している薬局の一包化した薬を、協力医が訪問診療時に届けてくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常で気付いた情報を看護師に伝え相談している。看護職員は利用者に対し状況に応じて診察を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを作成し、ご本人の状態について情報提供している。急性期が過ぎた段階で速やかに退院できるように、医療機関と連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りについての説明を行っている。また、重度化した場合や終末期の在り方については、訪問診療医、ご家族、職員とで情報を共有し、支援にあたっている。	入居時に重要事項説明書で看取りについて説明している。重度化の進んだ段階において、「看取り介護指針」の内容を説明し、家族、医師、看護師、管理者で話し合い、家族の意向を確認している。看取り介護を行う場合には「看取り介護についての同意書」を取り交している。本年度の看取り介護はないが、看護師の指導のもと研修を必要に応じて実施し、「看取り介護についてのマニュアル」を整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生に備えて、緊急時マニュアルが作成されている。	/	/
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。今年もコロナの為消防署に通報する訓練は行わず、火災避難訓練を実施した。12月に夜間を想定した火災避難訓練を実施する予定。	年2回避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練も行っている。消防署の立ち合いや地域住民の参加はなく、地域の避難訓練に事業所は参加していない。備蓄は飲料水、白飯のバック、即席豚汁、防寒シート、カセットコンロ、ガスボンベなどで、リストで管理している。事業継続計画については、法人が検討している。	新型コロナウイルス感染症収束後は、事業所の避難訓練に地域住民の参加を望みます。広域避難所の松永記念館まで実際に利用者が避難できるか、避難訓練に取り入れることを希望します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、トイレ、入浴介助はプライバシーに配慮しながら行っている。	職員研修は年間の研修計画に人格の尊重とプライバシーの確保について取り入れて、毎年実施している。言葉遣いには注意し、利用者を年長者として敬い、トイレ誘導時には周囲に気付かれないように、小声で声掛けし、ドアは閉めて、プライバシーに配慮している。個人情報を含む書類は事務所のカギの掛かるキャビネットに保管している。パソコンは使用者を管理者・主任等で区分し、パスワード管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間などに、ご利用者方々から希望を聞いている。その中から出来る事を提案しながら、ご利用者が決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーティンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液など希望された時は、要望に応じて購入している。また、ご利用者の希望に併せて訪問理美容を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月、花見などその時期にしか召し上がれない旬な食材を提供している。	食事は4名の厨房職員が食材の購入から調理まで一貫して担当している。献立は利用者の好みを聞いて、厨房職員が作成している。あくまでも手作りにこだわり、美味しいものを、新鮮な食材を選んで調理している。調理時の臭いや音などが醸し出す家族的な雰囲気を大切に考えている。利用者は簡単な下ごしらえやテーブル拭き、食器拭きなどの出来ることを手伝っている。誕生日には利用者の好きなお寿司など、正月はおせち、クリスマスにはロールケーキに果物などのトッピングを利用者に手伝ってもらいなどして、楽しんでいる。体調に応じてとろみやきざみ食などの食形態にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスを考慮し提供している。水分は食事以外でも提供し一日の水分量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自身で行った後、必要に応じて職員が口腔内のチェックを行っている。また、1回/月、歯科衛生士による口腔指導を受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄の管理を行っている。一人ひとりに声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。	一人でトイレに行くことができる利用者は3名で、他の利用者はリハビリパンツとパッドを使用し、排泄チェック表で排泄パターンを把握してトイレ誘導している。夜間は、介護度の高い利用者2名は睡眠を優先し、紙おむつとパッド交換で対応している。ポータブルトイレを使用する利用者が1名いる。トイレは各フロア2ヶ所で車いす対応である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を行う。食事面では、食物繊維の摂取にも心がけている。排泄状態の把握に努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調や希望に合わせて個別対応に心がけている。	入浴は週2回を基本としている。コロナ禍で外出して戻った際には、直ぐに入浴するように努めている。毎日入浴したいなどの要望があれば対応できる体制になっているが、特に要望は上がっていない。同性介助についても現在は要望がない。体調に応じてシャワー浴などにもすることもある。浴室は乾燥機付き温風ヒーターが設置され、ヒートショック対策がなされている。季節によってゆず湯や菖蒲湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。日中の適度な運動により安心して気持ちよく安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し理解している。月初めに体重測定を行い、体重の変化や異変について確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、一人ひとりの状態に合わせて皆で行っている。一人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活出来るような支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけられるよう散歩を日課にしている。	天気の良い日は毎日、松永記念館や香林寺など近隣を車いすの利用者も一緒に散歩している。コロナ禍で周囲に人は少なく散歩するには適している。玄関先のベンチで日光浴や外気浴をしたり、2階のベランダでお茶を飲む利用者もいる。10月には、ドライブレクリエーションを計画し、小田原の早川漁港や一夜城に利用者と職員、運転手の3名一組でドライブを楽しんでいる。今後は恒例で実施する予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた郵便物の代読を行っている。また、携帯電話を持参されている利用者に電話をかけたいとの希望がある時はお手伝いしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で木の香りや温もりが心地よい環境になっている。玄関や洗面台に季節の草花を飾り、家庭的な雰囲気になるように心がけている。	リビングの窓は、大きく採光が良く明るい。1時間毎に窓を開けて換気には注意している。床暖房や空気清浄機、加湿器が備え付けられている。床材に楓や桜の木を使用し、壁は漆喰で日本家屋の温かみを感じられる。壁には利用者の作品が飾られ、季節感がある。清掃は利用者が手すりを拭いたり、モップを掛けるなど出来ることを職員と一緒にしている。トイレ掃除も毎日2回、さらに必要に応じてその都度実施し、消毒液などの感染症対策を徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが置いてあり、いつでも交流出来るようになっている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品物を入所時にお持ち頂けるように、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。	常設されているのは、空調設備、照明、防災カーテン、介護用ベッドである。利用者は使い慣れたテレビやタンス、更に仏壇や位牌、家族の写真などを持ち込んでいる。清掃は利用者ができることを職員と一緒に実施して、窓を開けるなど換気には注意している。居室担当者が季節の衣服の入れ替えや備品の確認などを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを配置し、自立を促すよう配慮している。		

事業所名	グループホーム ぼぼ箱根板橋
ユニット名	かえで

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して、朝の申し送り時、理念を管理者、職員で復唱する事で理解に向けた働きかけを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナウイルス感染症が流行しているため、本来行うべきである、地域のお祭りや自治会の行事がほぼ中止になっている。 また、ご入居者が地域のお店に買い物に行ったり等、地域へ出ていく活動も行えていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月11日に地域の方へ向けた介護相談日を設けていたが、コロナウイルス感染症が流行しているため、現在は中止としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症が流行しているため、地域の方やご家族を招いての、運営推進会議の開催中止している。昨年同様に書面で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請代行や生活保護受給者の手続き等の困りごとを相談する機会を設けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	現在、言葉によるスピーチロックやご入居者の行動の制止をしないようにしよう。という取組みを全職員が力を入れて取り組んでいる。 また、玄関は必要により施錠をしているが、ユニット入口は施錠することは廃止し、常時開錠し、拘束を防いでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待行為は全体に行わないようご入居者の支援に携わっている。カンファレンス等で虐待防止に向けた勉強会を行い、全職員がその知識を身に付けられる場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員、管理者は権利擁護に関する研修に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に、ご入居者の様子を伝えまた、ご家族からもご要望を伺うようにしている。ご家族からの要望は、カンファレンス等で職員に伝えている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎月のカンファレンスに出席し、職員との意見交換を交わしている。また、個々に意見を聞く機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。また、経験年数に応じたステップアップのための研修に参加させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や資格取得のための、勤務しながら研修を受けられるよう便宜を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	以前は、小田原市小規模多機能・グループホーム連絡会の交流会やイベント、研修が開催されていたが、現在はコロナウイルス感染症が流行しているために、開催されていないため、同業者との交流は、ほとんど出来ていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には、施設見学をしていただき、入居に関しての不安な事、困りごと等を丁寧に伺い、安心していただける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在の本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困りごと、要望を確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に居宅サービスをプランニングしていたケアマネジャーに連絡し、状況を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、昔の風景などをご利用者から教わり、一緒に生活する者同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご本人の日々の生活状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるか、ご家族にできること、施設で出来ることを一緒に話し合えるようにしている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしているが、現在はコロナウイルス感染症の流行のため、ベランダ等で窓越しもしくは網戸越しでの面会とさせて頂いている。 また、手紙や電話の代行を行い、馴染みの関係を継続しやすいよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクリエーションや洗濯物たたみなどの作業を中心に、日中は出来るだけリビングで過ごして頂くよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族から相談があったときには、守秘義務に配慮しながら対応している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプラン更新時等に、ご家族から希望を聞いている。また、日常の関わりの中でもご本人の思いを把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、散歩等を日課として行っている。一人ひとりの趣味などの把握に努め、また、一人ひとりの身体状態や有する力の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスを全職員参加で行っている。ご利用者のケアで気が付いたことを話し合い、時にはご家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアの実施、工夫などを記録し、職員間で共有を行っている。 得た情報を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、ボランティアを活用していたが、現在、コロナウイルス感染症の流行に伴い、来園をお断りしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族対応で、かかりつけ医に通院されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常で気が付いた情報を看護師に伝え相談している。 看護職員は利用者に対し、必要に応じて診察を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを作成し、ご本人の状態について情報提供を行っている。 急性期が過ぎた段階で速やかに退院が出来るよう、医療機関と連携を図っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りについての説明を行っている。 また、重症化した場合や終末期の在り方については、訪問診療医、ご家族、職員とで情報を共有し、支援にあたっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。 応急時の対応についても行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。 今年は、コロナウイルス感染症の流行に伴い、消防署に通報する訓練は行わず、火災避難誘導訓練を実施した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、トイレ、入浴介助時は、プライバシーに配慮しながら支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間などに、ご利用者の方々から希望を聞いている。その中で出来ることを提案しながら、ご利用者が決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーティンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液など希望された時は必要に応じて購入している。また、ご利用者の希望に合わせて訪問理容室を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月、花見などその時期にし か召し上がれない旬な食材を提 供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスを考慮して 提供している。水分は食事以外 にも提供し1日の水分量を確保 している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ってい る。 自身で行った後、必要に応じて 職員が口腔内のチェックと磨き 仕上げを行っている。 また、1回/月、歯科衛生士によ る口腔指導を受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録システムで排泄の管理を 行っている。一人ひとりに声掛 けを行い、自立に向けた支援を 行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を行い散歩を 日課としている。 食事面では、食物繊維の摂取に も心がけている。 排泄の状態把握にも努めてい る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調や希望に合わせて、個別対応を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。 日中の適度な運動により、安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し理解している。 月初めに体重測定を行い、体重の変化や異変について確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、一人ひとりの状態に合わせて、皆で行っている。 一人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活ができるような支援を心がけている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけられるよう、散歩を日課としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。ある程度の自己管理が可能な場合は、少額の管理は行っている。 以前は、購入希望があれば一緒に買い物に出かけていたが、現在、コロナウイルス感染症の影響で、一緒に買い物には行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵送された郵便物の代読を行っている。 携帯電話を持参されている方から、かけ方が分からないと依頼があった時は、通話ができるよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。 玄関には季節の造花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが設置しており、ご利用者同士がいつでも交流できるようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品を入居時にお持ちいただけるよう、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを配置し、自立を促すよう配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ぽぽ 箱根板橋

作成日 令和4年1月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間帯は各707-1系707-2の郵便係利用の歳火災の発生(1の場合、ご利用者安全に避難誘導と中へ出来の、課題あり。	火災時、特に2F707-2の利用者を安全に避難誘導と行うこと。	<ul style="list-style-type: none"> 2F利用者 特々車又等々の誘導方法を全職員で考へる。 運営推進会議1-2地域住民等に消防対応を復しする。 夜間を想定した避難訓練と実施。 	令和4年4月1日 S 令和5年3月31日
2	35	火災避難訓練時、避難場所を不十分に関先と利用者の身、安全を考へて必要あり。	年に1回は広域避難場所へ全利用者様に避難誘導すること。	<ul style="list-style-type: none"> 火災避難訓練と実施。 1-2Fご利用者へ玄関先に誘導すること。 広域避難場所の確保(記念館等)と中へ復し(2/10m)。 	令和4年4月1日 S 令和5年3月31日
3				歩行可能な車に対応して道路横断に注意し、車内へ誘導と行う。	
4	4	昨年をコロナ禍のため運営推進会議にて対応と実施でせよこと。	本年度、新型コロナウイルス感染症に感染せよこと、1-2F(1回)を対応と開催すること。	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策と行った上、地域主催の行事にご利用者と参加すること。 新型コロナウイルス感染症に感染せよこと、1-2F(1回)を対応と開催と上、少人数での開催と実施すること。 	令和4年4月1日 S 令和5年3月31日
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。